

Ⅲ. 所沢図書館の課題

1. 社会情勢に対応する課題

24時間対応型社会、就業形態・労働時間の変化、週休二日制や学校週五日制の定着など、ライフスタイルが変化してきています。余暇の使い方、価値観も変化してきており、市民の生涯学習への意欲も高まりを見せています。

学校や保護者、地域団体等による地域活動の活性化も進んできました。増加する高齢者の生涯学習活動の支援、参加機会、そして成果報告の場の創出も求められています。

職業生活にある社会人にとっては、急速に進む制度変化・技術革新に対応するための、新たな知識の入手や、技術の学び直しが必要となっています。

また、社会環境の変化に伴い、市民自らが課題解決の判断を求められるようになり、そのための参考となる資料・情報が必要とされています。

情報の入手方法・提供、娯楽、コミュニケーション（SNS・メール等）で利用される、インターネット等ITが急速に普及し、あふれる過剰な情報の中から、信頼できる情報を選別しなければならない状況となっています。

一方、情報は周囲にあふれているのですが、媒体がないために入手できない市民も存在し、いわゆる情報格差が発生しています。

このような社会的状況の中で、図書館は、生涯学習の拠点として、あらゆる方の、教養・調査研究・趣味・娯楽等に役立つ資料や情報を提供し、自由で豊かな地域文化の創造と発展を支援する施設としての役割を期待されています。

2. 数字から見る課題

所沢図書館の統計等から、次のような課題が読み取れます。

- (1) 館別貸出冊数の推移からみると、所沢分館の移転開館により、本館及び他分館の利用が、所沢分館に移っています。このことから、平成24年の新所沢分館開館の影響で、さらに利用者の移動が予想されます。利用が減少した各館では、利用促進が必要とされています。
- (2) 貸出数は、貸出冊数を5冊から10冊に変更したことや、コンビニエンスストア図書等取次事業の稼働などにより、長期的には増加していますが、利用者数は、減少しており、新規利用者の拡大が課題です。
- (3) 高齢者層について、利用率が高いのに比べると、登録率はそれほど高いとはいえず、特定の利用者による利用が多いと思われます。高齢者層についても、利用拡大の努力が必要です。
- (4) 図書購入費については、開館準備等のため、年ごとに増減があります。図書は出版状況により、時機を逸すると入手が難しくなるため、毎年予算額が安定していることが望ましい状態です。
- (5) 所蔵冊数は、増加していますが、新所沢分館が開館したこともあり、蔵書構成を維持するために、安定した資料費がさらに必要となります。

3. アンケートから見える課題

本ビジョン策定にあたり、市民の意向を把握し、ビジョンに反映するため、平成24年1月に、無作為抽出による市民アンケート、及び市内小学生、中学生、高校生を対象としたアンケート調査を実施しました。

調査結果の詳細は、『所沢市立所沢図書館市民アンケート調査集計結果報告書』として、各図書館及び図書館ホームページ等にて、公開しました。

(1) 実施内容及び回収結果

ア 市民アンケート調査

住民基本台帳から年齢別人口比率に基づき無作為抽出した満18歳以上の市民2,000人に、郵送法でアンケート調査を実施しました。

【回収結果】

(単位:人)

標本数	有効回収数	無効数	宛所不明	返送なし
2,000	687(34.35%)	2(0.1%)	13(0.65%)	1,298(64.9%)

イ 小学生アンケート調査

市内小学校(32校)5年生男女1,060人に、各校配布によるアンケート調査を実施しました。

【回収結果】

(単位:人)

標本数	有効回収数
1,060	1,057(99.72%)

ウ 中学生アンケート調査

市内中学校（15校）2年生男女550人に、各校配布によるアンケート調査を実施しました。

【回収結果】

標本数	有効回収数
550	548(99.64%)

エ 高校生アンケート調査

市内高等学校（6校）2年生男女240人に、各校配布によるアンケート調査を実施しました。高校生は、市外からの通学者が多く、市内在住者は、有効回収数の37.7%でした。

【回収結果】

（単位：人）

標本数	有効回収数
240	217(90.42%) ※内、市内在住者82名

(2) アンケート調査から見る傾向

ア 市民アンケート調査からみる傾向

- 大多数の方が、読書に親しんでいますが、図書等の入手方法は、購入が7割を超えており、公共図書館を利用する方は少ない傾向にあります。
- 情報の入手方法は、インターネットで調べる方が圧倒的に多く、図書館の利用は少ない状況です。
- 貸出サービスについては良く知られていますが、その他の図書館サービスは、全般的に認知度は低くなっています。

- 図書館を年に数回程度しか利用しない、利用したことがないなど、利用頻度の低い方が7割近くを占めています。
- 利用しない理由としては、「利用する必要がない」に次いで、「遠い」「時間がない」など、利便性の問題が上位を占めています。
- 利用される曜日・時間帯は、「関係なし」「平日」「休日」が同程度であり、突出した傾向はありませんでした。
- 利用する方の約7割が、1時間以内の短時間の利用となっています。
- 利用方法としては、貸出、館内での閲覧が多くなっています。
- 図書館利用の目的は、趣味・娯楽の目的が圧倒的に多く、特に60歳以上の方が多く選択しています。
- 各種サービスは、全体的に8割以上の方が「満足している」「どちらかといえば満足」を選択しており、利用している方の満足度は、高くなっています。
- 職員の対応、開館日・開館時間は、重要度が高い項目であり、満足度も高い評価を得ています。
- 重要視されていても満足度は低く、差があるのは、「読みたい本や雑誌の充実度」に次いで、「本や資料の探しやすさ」となっています。

イ 小学生アンケート調査からみる傾向

- 「よく行く」、「たまに行く」を合わせて6割以上の児童が公共図書館を利用しています。
- 本館・所沢分館・椿峰分館等の大規模館が主に利用されています。
- 利用日時が決まっていない児童が約6割で、火曜日～金曜日の利用

は低い数値となっています。

- 親と図書館に行く児童が半数以上を占めています。友だちと図書館を利用する児童は約2割です。
- 約半数の児童が、読書・図書の貸出返却で図書館を利用しています。調べ物で利用する児童は2割程度です。
- 時間がなく図書館を利用していないと回答している児童は、約2割です。3割以上の児童が、本は購入している（家にある、買ってもらえる）ので図書館を利用していません。
- 貸出サービスについてはよく知られていますが、CD・DVD等の貸出、調べ物相談等のサービスはあまり知られていません。

ウ 中学生アンケート調査からみる傾向

- 「よく利用する」、「たまに利用する」を合わせて、約7割の生徒が公共図書館を利用しています。
- 本館・所沢分館の大規模館の利用が多いですが、その他の分館も1割前後と、それぞれの地域で均等に分館が利用されています。
- 友だちと図書館を利用すると回答した生徒が最も多く、一人で利用すると回答した生徒の割合も、小学生より高くなっています。
- 図書の貸出・返却や読書、調べものなど、7割以上の生徒が何らかの形で図書館資料を利用しています。催し物の参加は極めて少ない数値となっています。
- 2割以上の生徒は時間的余裕がなく、図書館を利用できない状況です。また、同じく2割程度の生徒は、図書館が遠い、図書館の場所を知らないなど、立地等による理由で図書館を利用していません。

- 図書の貸出・予約サービスについてはよく知られていますが、CD・DVD等の貸出については、半数以上が知らなかったと回答しています。

エ 高校生アンケート調査からみる傾向

- 大多数の生徒が、読書に親しんでいます。図書等の入手方法は、購入が約8割近くで、公共図書館の利用は著しく少ない状況です。
- 情報の入手方法は、インターネットの利用が8割を超えており、公共・学校図書館の利用を選択した生徒は、ほとんどいませんでした。
- 貸出サービスについては良く知られていますが、その他の図書館サービスは、半数以上が知られていません。
- 所沢図書館を利用したことがない生徒が7割以上で、ほとんど利用していない生徒が大半を占めています。
- 利用しない理由として、「場所を知らない」と回答した生徒が、3割を超えています。
- 利用する生徒の約6割が、短時間の利用となっています。
- 利用方法としては、持ち込みの学習が多く、利用の目的も「学校の勉強のため」が4割を超えています。
- 各種サービスは、全体的に8割以上の生徒が「満足している」「どちらかといえば満足」を選択しており、利用している生徒の満足度は、高くなっています。

(3) アンケート全体から見える課題

市民、小学生、中学生、高校生へのアンケート調査結果から、以下のよう
な課題が読み取れます。

ア 図書館利用の普及・促進

通学者においては、利用しない理由として、「場所を知らない」とい
う回答も多くあり、図書館そのものについての積極的な広報が必要です。

また、市民アンケートでは、「利用する必要がない」とする回答が多
く選ばれていますが、貸出以外のサービスについて、認知度が低いこと
から、様々な図書館事業等の情報提供を行い、利用の促進を図ることが
必要です。

特に、小学生については、土・日・祝日に親と来館するパターンが多
いことから、保護者に向けた子どもの読書活動の普及・啓発や親子で参
加できる行事の充実などが、必要と考えられます。また、図書館見学や
学級訪問を通じて、図書館利用教育を推進していく必要があります。

イ 市民ニーズに対応した蔵書・資料構成の充実

図書・情報等の入手は、多くの市民が、購入・インターネットなど図
書館以外の選択肢を選んでいますが、今後優先的に行った方が良いサー
ビスとしては「図書等資料の充実」が多く選択されており、市民ニーズ
に対応した資料収集が求められています。

ウ 身近な図書館であるための利用環境づくり

居住地域に分館がない、就業等により開館時間内に利用できないなどの声があります。時間、立地等の条件も利用しない理由になっていることから、利用格差の縮小を考慮した、市民が身近に利用できる図書館であるための環境づくりが必要です。

エ 快適な読書環境づくり

図書館利用目的の上位に、館内での閲覧があり、優先的に行った方がよいサービスとして、「施設・設備の充実」も求められていることから、快適な読書環境を整備・充実していく必要があります。

オ 利用者層のニーズに合わせたサービスの充実

高齢者層は「娯楽」、学生は「学習」など、世代により図書館の利用目的が異なります。

「高齢者向け」「中・高生向け」など、世代別サービスも求められていることから、利用者層のニーズに対応できるようなサービスを充実させていく必要があります。